

これは一人暮らしだった姉が「転んだことから特養に入居するまで」の記録を記したもの

6月27日（火）

朝パソコンの部屋で食事をしていると外に姉の姿が。孫が「瓶の音がしてる」というので意味がわかりました。曜日を間違えて瓶を持ってきたようです。孫に伝えてもらいUターンしたら我が家の前で転んでしまいました。瓶の割れる音がして外に出ると万歳の腹ばい状態で動けません。ご近所さんも出てきて皆さんに助けてもらい「救急車呼んだ方がいいよ」という事で救急車のお世話になり藤田医療センターに搬送。お昼近くになってやっと出てきて全部異常なし。タクシーで帰り3階まで送り届けてやっと朝食の続きを。本当に疲れ振り回された一日でした。予定していたことが何もできていないので今日はそれらをやりましょう。育てている植物や自然とのふれあいが私を元気にしてくれます。（このとき救急車の中で熱があることがわかり、藤田医科大で「コロナ陽性」を告げられました。

6月28日（水）

姉がコロナだとわかったので教室はお休みをもらう。でも午後のホスピスの人は、どうしてもやる作業があったので二人で一緒にやりました。夕方から孫がネットで授業を受けるというので早めに食事を食べさせ、終わって帰った後気になって姉のところに電話をするけれど出ません。夜寝る前にもう一度電話したけど出ません。

6月29日（木）

朝7時頃電話をしても出ないので、大家さんに部屋を開けてもらうようお願いしたら「鍵は持っていない」とのことで管理人さんに来てもらったけど、こちらも個人情報とかで「鍵は持っていない」とのこと。（アパートの管理会社に変更になってから鍵は1つしかなくて、私も合鍵を作ってなかったのです）仕方なく警察を呼んだり、救急車やレスキュー隊も出動して、結局お隣の人がいたので部屋を通らせてもらってベランダに出てガラスを割って入りました。お風呂場にいたようです。転んで動けなくてそのままの状態だったとか。私は本人と話をしていないので、どういう状況だったのかわからないけれど救急隊の人の話では「本人も転んだときの記憶はない」とのこと。また藤田岡崎医療センターで受け入れてもらって「本人が痛がっているのでCTでは出てこない所で何かあるといけないので入院して検査をします」という結論になりました。家に帰りやっと3時頃お昼を食べていると電話が入り「飲んでる薬を全部持ってきて下さい。」と言うことでまた3階に上がり薬を持って藤田に。友人が「検査結果、何もなければすぐに帰されるよ」とのこと。このままどこか入院できる所を探そうと思っています。日常生活で何かアクシデントが起きる、自分では判断できない認知症のスイッチがONになるのではないかと判断しました。

6月30日（金）

「災い転じて福となる」日でした。藤田岡崎医療センターに行きソーシャルワーカーの人にいろいろ相談したら「このまま転院は難しい。介護申請の代行はできないので自分で市役所に行ってもらおう。包括センターのなのはな苑はできる」と教えてもらったので、そのままなのはな苑に直行しました。行くと姉の状態が連絡済みで話がとてもスムーズに進みました。書類は7月受付で8月末に審査があり、9月に支援の等級が決まるということでした。ついでに「ケアハウス見て行かれますか？」と聞かれ「是非」と返事をする系の人が来てくれてご近所さんでした。こちらに勤めていることは知っていたのですがケアハウスの担当とは知らなかったので話が早い。面白いことに「ケアハウスは「自立の人」が前提になるので介護認定のない人を受け入れている」「今現在夫婦部屋が空いているので認可が下りればすぐに入れる」とのこと。すぐに書類をもらって書き込み、後は本人の顔写真と戸籍謄本があるので来週の作業になります。写真は最近のないので退院時についでに美容院に行ってきたにもらって撮ろうかな。その写真をマイナンバー申請にも使えるし。それまでに私のやることはあちらの入居が決まるとしても、その間はアパートで過ごすのでその掃除を。そして新聞の中止と生協の宅配を聞いて・・・

次々とやるが出てくるのでメモが必要です。でも暗い状況の中で模索していた昨日と違って今日は前に進むための作業になります。「この人運を持っているね」と言われ、本当にそうだったけれど姉が持っている？私が持っている？ 私の肩の荷が下りたことだけは確かです。

7月1日（土）

毎日天国と地獄を行ったり来たりのような日です。ガラスの入れ替えに来てもらったので時間を合わせてアパートで大掃除に行きました。まずはカーテンを開け戸を全開にし空気の入れ換えをしたら家中のホコリが眼に入り呆然としてしまいました。床の汚れはわかっていただけですさまじい埃の中で生活をしていたとは思ってもよらず、何かから手をつけようかとしばらく頭が回りませんでした。それでもとりあえず掃除機を探したのですが見当たりません。押し入れの中に押し込んであったので多分日頃からかけてなかったのでしょう。風の入るベランダから始めテレビを動かすとその下には・・・置いてある本を動かすとその下にも。ベッドの下には綿埃が。掃除機をかけた後は台所の床掃除。持ってきた自動拭き取り機を回したけど重くてすぐに充電が切れてしまいました。雑巾で拭くこと数回。最後に冷蔵庫を見て仰天。冷凍庫は超満タン。野菜入れには同じ野菜がいっぱい。カボチャはカビが生えたのも。やっと自分の中で点が繋がりました。とっくに痴呆が始まっていたのです。自立を促すつもりで時に冷たく時に厳しく「自分でやりなさい」と言って来たのは無駄だったようです。本人にとっても辛いことだったかもしれません。掃除は半分でやめて家に帰ると娘がコロナの検査キットを持ってきてくれて検査方法を教えてくれたので、まずはシャワーを浴びて落ち着いてから調べたら陰性でした。すぐにLINEで報告し証拠に写真も送ったら「良かった！」と返事が来ました。病院でも家族感染が出始めていてハラハラしていたようです。「私はいかからない」と言っていたしその自信もあったけどこうして証拠があると自分の感を信じていいようです。さて今日は藤田に電話をしてその後の様子と入院生活に必要な物を届けてこようと思っています。今後の姉への対応は変えなくてはなりません。厳しくよりも逆に穏やかに接して不安をなくすことが優先です。私のスイッチをきちんと切り替えないと。

7月2日（日）

パソコン教室を25年もやっていると、来ている生徒さんを見ていてわかったことがあります。60代は元気バリバリ、70代は病気をもちつつ一人で何とかできる。80代になると病気と支援が必要になってくる。90代は一人暮らしは難しく一緒に住んでくれる人がいる。

今こうして姉のことを赤裸々に書き込んでいるのは、姉を愚弄するためではありません。一つには私の頭を整理するためと同じような年代の人に、こういうこともありうるということを知ってもらうためです。今後起こりうる状況を参考にしてもらえればと思っています。

7月3日（月）

退院の日が決まりました。整形外科の先生から直接電話が入り、現在の様子と今後のリハビリのこと、私の都合も話して退院は6日（木）10時に決まりました。「早く退院できれば」と願っていたこととはいえさあ忙しくなりました。アパートの洗面所に置いてあった服などを洗濯し、乾いたら退院の服として持って行きます。息子と合流して一緒に部屋の掃除をします。大量のドリンクの瓶があったのでこれらは息子に我が家まで運んでもらい、来週出します。冷蔵庫の生鮮野菜は昨日も届いたのでそれらを入れて古いのは持ち帰ります。冷凍品はそのままにしておきましょう。どうするか本人聞いてからにします。目まぐるしくてどうにかかなりそうだけど、ここは自分もしっかりと踏ん張って頑張らないと。足踏み状態から抜け出せるのが嬉しいです。

7月4日（火）

イオンに行って合鍵を作ってきましたが、午後病院から電話が入り「3階まで上がるには筋力が衰え難しいので妹さんの家で過ごすことはできないか」という連絡でした。丁度よかったので「退院の服を持って行く・住民票を取るのに委任状があるのでサインが欲しい・ケアハウスの申込書に顔写真が必要なのでそちらで撮ってもらえないか」ということで午後3時半頃行ってきました。写真を見ると不安そうな顔をしていました。委任状のサインはきちんと書いていたけどアパートの住所がわからないとのことで私の方で書いておきました。履歴書がアパートにあったのでそれをコピーして病院に持って行き、学歴は卒業年だけ、職歴は早稲田だけでいいので簡単に書いてくれるように頼んでおきました。最後は「2011年3月に岡崎に転居」です。市役所に行って住民票をもらい、写真も貼ったので書類は全部整いました。朝、なのはな苑に持って行ってきます。もし退院と同時に入られるようならこんないいことはありません。孫たちが体調不良で夕べ救急搬送されたので、用心のために教室をお休みする事にしました。もしかしたら私に休憩時間をくれたのかも。少々バテ気味です。長女が心配して毎朝電話をくれます。息子も「できる限り手伝うから言って」と一言残して帰りました。ありがたい！

7月5日（金）

朝ケアハウスの書類が全部整ったのでなのはな苑に行き部屋も見えて希望に膨らんで帰って来たら病院から電話が。「満床で困っているので今日退院してほしい。3階には上がれないので妹さんの家に」ということです。タクシーを呼んで迎えに行ったら絶句。車椅子で降りてきて自力で立つことも歩くことはできません。車に押し込み我が家のわずかな階段は肩に手を、私は腰に手を回して抱えて家の中に入りました。すぐなのはな苑に電話をしケアハウスはキャンセルし、ケアマネさんに相談したら夕方別の事業所の人と一緒に来てくれて、本人と家の状況を把握し要支援ではなく要介護が必要という結果になりました。市役所に電話をして「病院を追い出され老老介護で困っているのでもう早く面談をして欲しい」と伝え8月29日より前にキャンセルが出れば、ということになりました。なのはな苑は要支援しかできないので、これからは新しい事業所の方で要介護の支援に入ります。とりあえずベッドがないので今日の夕方姉の部屋に行って今まで使っていたベッドが使えるかどうか見てくれるそうです。決まったら専門業者に運んでもらいます。何しろトイレに行くまでが大変です。今朝娘から電話があって（毎朝生きてるか〜と電話してきます）「トイレの前でぶっ倒れてたんじゃないの」というのでびっくりして「えっ、家に来たの」と思わず言ってしまいました。夜寝る前に下に降りたらまさにその通りでした。これを布団まで運ぶのが大変。これからの暮らしはどうなるのでしょうか。

7月6日（木）

少しの疲れを感じつつ静かな朝を迎えました。「足が痛くて夜眠れなかった」というので包帯を取ってびっくり。藤田では退院の時に「足に水疱ができていますので包帯を変えて下さい」と言われたのを思い出したのです。写メで撮って娘に送り「どこに行けばいいの」と聞くと調べて連絡をくれました。「わかまつ町ひふ科。ネットで予約が取れるから見てごらん」というので調べて予約をし問診票は印刷して書き込み、タクシーが取れなくてご近所さんをお願いして連れて行ってもらいました。「褥瘡」だそうです。「歩けない人を無理に退院させ、どこの病院も紹介しないのは不親切」と先生は憤り「共立病院を紹介するので丈夫な杖を作ってもらいなさい。予約は3時で取れました」と紹介状も渡してくれました。再びご近所さんをお願いして病院に行き「入院できませんか」と聞くとできるとのこと。診察が終わると3階の部屋に行き、本人はすぐに数人がかりで体をきれいにしてもらいレントゲン室に行ったようです。私はたくさんの書類を書き込み、姉が部屋に戻ってくるのを待たずに家に帰りました。夜心配をかけた叔母に入院できたことの報告と従姉妹へ伝えてくれるよう頼み布団に。息子にその後の経緯を報告。すると今度は出雲の従兄弟から電話が。叔母が伝えたいらしいです。製材所を営み今は会長職に退いているけど「お金は大丈夫か」と経済的なことを聞いてきたのは初めてです。聞いてくれただけでも心強かったです。姉の通帳を見たので「たくさんの蓄えはないけど当面の心配はない」ことを伝えました。姉

の病気の心配がなくなっただけでも本当に助かりました。 今頃疲れが出てきたのか体が重いです。今度の病院は面会が可能なので行って顔を見て話をして互いが安心できたらと思っています。

7月7日（金）

午後3時頃病院に行きました。「お昼過ぎに行きます」と伝えてあったので待ちに待っていたようです。 わずか 10 分の面会時間はすぐに終わり（芥川龍之介の本の話になったのできりがありません）食欲がないというので何が食べたいか聞いたら「粕漬け」と言う。 生もの以外は持ち込んでもいいと許可をもらい、他に「写真とか手紙とかあったら持ってきて下さい」ということで「義兄さんの写真を持ってくるね。自分のは？」と聞くと「いない！」と即答（笑い）。 帰りにアパートに寄り部屋の中を物色。日記帳が欲しいと言うけれどいくら探してもないので写真と生徒や叔父からもらった手紙を袋に詰め適当に本を持ち帰りました。（ここにいると読みたい本がいっぱいあるので座り込みそうになります）さあ今度は大家さんに。救急搬送された後の報告と、規則で1ヶ月前には退去の申し出をする事を知ったので8月末までと決めました。新聞屋さんに中止を。今日は電話の中止をしましょう。本人の体の心配がなくなったので、今度は事務的手続きをしていきます。

今日の午後から雨模様です。藤田医科大から持ち帰った入院セットがまだそのままなのでそれらを片付け憩いの農園で花を買ってこよう。 部屋をきれいにし、花を飾ったら気分が晴れるでしょう。ちょっと元気が出てきました。

7月8日（土）

入院先の共立病院は土日は入れません。私にとっては休養日となります。そこで寝坊をしてゆっくりして・・・ と思っていたのに、いつものように4時に目が覚めて、いつものように朝のストレッチから散歩まで行ってきました。蒸し暑かったです。散歩は短いコースにし、悠々と空に泳ぐ鷺2羽を見ながら朝の空気はやっぱり元気の基です。

7月9日（日）

今日は浮腫について書きます。金曜日に病院に行ったときに聞いて来ました。「排尿が上手くできていなかった」ということです。本来なら尿は自然に出ると思うけど、それを押し出す力がなかったそうです。このままほっておくと腎臓に悪影響を及ぼすとのことで管を入れて出したらすごい量が出たそうです。今は管を入れて袋に貯めています。褥瘡についてはあまり気にとめていない感じで「大したことない」という雰囲気でした。でも、たった5日間の入院であれだけの褥瘡ができることが私には不思議だったのです。なぜ褥瘡ができるのか。ネットで調べると「褥瘡は、早期発見以上に予防が大切で・低栄養を避ける・肌は清潔に保つ」この2つとも姉には当てはまります。この暑い時期に「お風呂は2〜3日入らなくても大丈夫」という人です。「臭いよ」と時々言うのですが。部屋の換気がしてなくて部屋も匂います。少し前に変えたはずの新しいカーテンは所々カビが発生していました。ガラス屋さんに言わせると「換気がされてないから水滴がカーテンに付着して起きている」そうです。部屋の掃除に行った時にあまりにすごい埃に絶句でした。低栄養は自分でも気をつけているつもりでしょう。冷凍室にはたくさんのお肉と魚が入っていました。気持ちはあるけれど料理してなかったかな。それらを補う為に栄養ドリンクを飲んでいたのかも。こうした生活習慣から数日の入院であれだけの褥瘡ができたのかと勝手に解釈しました。今は共立病院で見てもらっているので本当に安心です。老いたら動きたくなくなりすべてが面倒くさくなるけれど、日々の努力は必要ようです。 昨日はパソコン2台を持ち帰りました。プロバイダーの契約解除を申し込むためです。

7月10日（月）下弦の月

朝、姉のかかりつけ医に電話をしてご挨拶に行ってきました。6月23日に診察に行ったようです。その後27日に転んで救急搬送。29日には風呂場で見つかったまた救急搬送。「怒濤のような出来事だったんだな」と言われました。「ふらふらはコロナのせいかも。歩けるようになるかなあ」とつぶやいていたのが気になっています。今日から姉の書類関係に電話します。昨日のうちに優先順位をつけておきました。今日は「要介護・要支援認定の申請」について知り得た内容を書いて起きます。たくさんの人のお知恵を拝借してとてもいい形で申請ができましたが、まだ面談の日が8月29日のままです。現在岡崎市では認定が決まるまで3ヶ月かかります。ここで伝えたいことは「80歳を過ぎて一人暮らしの人はすぐに申請しておくべき」だということです。改めてこの間の流れを記してみます。

①最初の救急搬送の後、藤田医科大の医療相談室でソーシャルワーカーに面談。ここでは代行はできないので書類の申請は「なのはな苑でやった方がいい」→ なのはな苑に直行 書類を完成させ提出。ここで大切なのはどこの先生に健康診断を書いてもらうか。姉は整形と内科に通っていたので内科を選択。市役所からは「8月29日に面談」の通知が来た。

②2日後またしても救急搬送で藤田医科大に入院。5日後に満床で退院。すぐになのはな苑のケアマネさんに電話をし「自宅で見ることは無理」と伝えと別の介護事業所の人と来てくれた。（なのはな苑は要支援1-2で要介護1-2はできない）その夜は我が家で泊まり、翌朝「足が痛くて眠れなかった」という言葉で足を見るとかかとが真っ赤。娘に相談し皮膚科に連れて行く。

③皮膚科の先生が「立つことも歩くこともできない人を退院させるなんてのもっての外、と共立病院を紹介してくれて午後そちらに受診。→入院が決まる。

④なのはな苑のケアマネさんに共立病院に入院したことを報告する。ここで最初に提出した「要介護・要支援認定の申請」の医師の診断が関係してくる。かかりつけ医の先生は救急搬送をされたことも藤田医科大に入院したことも現在共立病院にいることも知らないで今現在の容態は書けないはず。それをなのはな苑のケアマネさんが両方の先生に了解を取って結局、今の様子を一番よくわかっている共立病院の先生に変更してくれた。

ここでは流れだけを中心に書きました。「ふらふらめまい」といつも言っていたのに無視してきたこと、おかしいと思いつつ認知が進んでいたことに気がつかなかった自分の無知を悔いました。もし要支援をもらい家事援助とかやってもらっていたらもっと早くいろいろなことに気がついたかもしれません。最初に言った「80歳を超えて一人暮らしが不便」だと感じた人はすぐに申請を出すべきです。まずは家事援助からやってもらいましょうよ。

7月11日（火）

引き続き通帳から引落されているところへの解約手続きをやっています。①コープあいち ②新聞 ③電話 ④ソネット ⑤NHK ⑥ティープラス ⑦中部損害保険 ⑧CU などの他に、電気・ガス・水道料金などがあります。解約の手続きが終わってもNTTはルーターなど返却の作業が入りました。NHKは1ヶ月分を返してくれるそうで、送られてきた書類に姉の署名をもらい振込先を明記した書類を返送する作業があります。でも解約作業が終わったからこその次なので、根気よくやっていくしかありません。郵便局に「転送願い」をしたら「本人を連れてきて下さい」とのこと。それは無理だと言ったらネットでできるとのこと。やってみたら「会員登録」が必用でした。もう面倒くさくなったのでアパートに時々見に行くことにしてこちらは終了。こんな作業をやりながら「自分のもきちんとわかるように一覧表を作っておかないと」と切に思いました。こんな面倒なこと誰がやってくれるでしょうか。お一人様だけでなく、夫婦でも主にやっている人が倒れたら残された人は何もわかりません。元気な内にデータを共有しておく必用があります。今回の作業で一番困ったのはカードで毎月引き落とされているのが何かわからないことです。本人に聞いても「わからない」とのこと。それに銀行の暗証番号を忘れているので病院などの支払いにも困ります。これらもわかるようにしておく必用がありますね。さあ、皆さんどうしますか？

夕方病院に行ったら「毎日来ないで下さい。来るときは予約が必要」と言われました。「今度は来週ね」と伝えると一瞬不安そうな顔をしましたが、こちらに移ってからずいぶんいい表情をしているので大丈夫でしょう。

7月12日（水）

病院に行かないと決まったら随分と気持ちが楽になりました。久しぶりに餃子を作りお昼はゆっくりと食べお昼寝ができました。朝一で仕事、夕方4時～仕事だったけど、これが私の日常です。明日は永平寺に行ってきます。病院に行かないので心ゆくまで楽しんで来ます。（でもお天気は雨模様） アパートの管理人さんから「ガラスの割れたのはどうなったか」と確認の電話がはいりました。「直してあるから大丈夫です」と返事をしておきました。8月の退去の立ち会いは日程変更はできるとのこと。息子と相談して、できれば今月中に必要な荷物を運び出し、電気屋さんに電化製品を処分してもらい、8月に入ったら業者に残りの品を処分してもらう手順でいこうかと思っています。残った品を処分してくれる業者を知っていたら教えて欲しいとお願いしておきました。早く退去できたら日割り計算にしてくれるそうです。

7月13日（木）

NTT 西日本からルーター返却の封筒が送られて来ました。封筒には着払い用紙に宛先も印されているのでルーターを入れて郵便局に持って行くだけです。

7月14日（金）

朝アパートに行き、ルーターとアダプターを封筒に入れ郵便局で出してきました。ついでに預金引き出しの委任状の書き方を教えてもらい書類を持ち帰りました。18日（火）に病院に行くので書いてもらいます。郵便受けをずっと開けていないので気になって大家さんに教えてもらい持ち帰ると案の定、藤田医科大学の請求書と市役所の介護保険課からは「介護保険資格者証（介護保険暫定被保険者証）、もう一つ市役所から「給付金事務センター」の3通大切な物が届いていました。藤田医科大学は20日締め切りだったので、この後の3連休を考え立て替えて支払ってきました。給付センターの書類は書き込んで返送の必要あり。二転三転した介護認定の面談の日は8月14日（月）2時～共立病院で行うことに決定しました。

夕方、なのはな苑から引き継いだ介護事業所の人から「その後どうですか？」と電話がかかってきました。こうした人たちの連携や後方支援に驚かされます。いろいろな案を提案してくれるそうです。本当にありがたいです。

7月15日（土）

朗読講座の帰りにアパートに寄り「1時間」と決めて洋間の片付けをした。目的は本を整理するため。ブックオフに連絡して来てもらおうと思うのだが本箱の前に座ることもできないし、本を並べるスペースもない。改めて本棚をみて、東京神田の書店ならまだしも分厚い英語の辞書やら美術の専門書も英語の本がほとんど。文庫本は黄色く変色した古い物。それにしてもどうしてここまで物を捨てずにため込むのか。汗だくの1時間があっという間に終わり未練を残しながら自分の体力温存でアパートを後にした。

7月17日（月）

昨日アパートの管理人さんから電話がはいり、「部屋の後片付けはこちらでもやることにしました。見積もりを出すのでそれで良かったら引き受けます」とのこと。必要な物を全部持ち出したら連絡をする事。通帳からの引落はドコモだとわかったので解約手続きをした。ブックオフに電話をするとすぐに対応してもらえて20日（木）に来てもらうことになり、本は全部持ち帰りで査定をしてから金額は振り込んでくれるそうだ。持ち帰った本は返却できないと念を押される。お金はいらないから持ち出してもらえただけでも助かる。願ったり叶ったり。電

気屋さんが来てくれて、頼んであった電化製品の持ち出しは業者に一括して処分してもらうことにした。

朝病院から電話がはいり、「バルーンカテーテルがはいっているけれど認知が進んでいて自分で抜いてしまうので手袋をしてもいいですか」と家族の了解を得る電話だった。岡崎ホスピスケアで学んだ「現場では大変で必要悪」とわかっているので「お任せします」と答えておいた。病院に面会に行かなくなると認知症が進むのではと気になっていた。多分不安なんだろうなあ。

7月18日（火）

病院に行ってきた。顔色がいい。よくしゃべる。看護師さんとも仲良く過ごしているみたい。「穏やかで、ニコニコしていて、いつもありがとうございます」と看護師長さんが教えてくれた。「出雲や早稲田の話がよく出ます」とのこと。相手をしてくれる人が欲しかったのだろう。こうなった理由に思い当たった。コロナになり我が家の集まりも時間差でやるようになった。姉は呼ばなくなった。そのあたりから寂しかったのではないと思う。叔母や従兄弟から届いたお見舞いは手紙だけを抜いて持って行った。従兄弟からは折りたたんだ鶴がはいっていたのでそれも持って行った。

先日から手続きをしていた先から続々と書類が届きだした。住宅の火災保険やNHKは払い戻しの書類が。一方藤田医科大に入院中のレンタル料金の請求書も届いたので今日は仕事の合間に片付けてしまおう。すぐにやっておかないと私の頭もあまり信用できなくなっているから。

7月19日（水）

書類3通投函と藤田医科大入院中のレンタル料金の支払い。

①NHK払い戻し ②アパートの火災保険払い戻し ③助成金振込みの書類

7月20日（木）

午前中にブックオフの人が来ることになっていたので私は1時間前にアパートに行き洋間の整理を始めた。念のため和室を見たらこちらにも本が、押し入れを開けたらこちらにも本が。東京から岡崎に来るときに引っ越し屋さんが、トイレにも廊下の押し入れにも本があって見積もり以上の本に絶句していた悪夢を思い出した。たくさんダンボール箱を持参して部屋に来てくれたが、まずは「辞書はだめです。本も表紙のないもの、茶色に変色した物は持ち帰れません。まして付箋やマーカーで線を引いた物は論外」ということで結局ダンボール2箱で終了。本箱はほとんどそのまま、逆に押し入れにあるアルバムや大量のノートなどを見つけまたしても天国から地獄に。なんで片付けができないだろうかと、やり場のない怒りがこみ上げてきた。これは認知症とは違う。東京から岡崎に来たときと同じだからだ。残された紙袋やビニール袋を片付けながら疲れた……。一応植物画の作品と油絵の写真は撮ってきた。

7月21日（金）

家に帰って電話を見ると病院から何回も電話がはいっていた。何事かと気になってすぐかけると①部屋を移動したこと（一人部屋から二人部屋に）②またしてもカテーテルを抜いてしまうので困っていること③勝手にベッドから降りて立ち上がろうとするので転倒を心配している、ことなどが知らされた。認知症が進んでいるようだ。

朝一で本局に行き新しい保険証を受け取り、ついでに転送願いも出してきた。夕方からアパートの掃除に行く前にATMにより、先日古い住所録に書かれていた4桁の数字を見つけたので1万円だけ引き出してみた。できた！これで病院の支払いができる。その足で掃除の続きを。プラ、紙、不燃、燃えるゴミなどに分別し、出てきた大量の油絵の道具と植物画の色鉛筆などは、新しい缶があったので全部まとめて入れた。まずは第1段階が終了。来週から息子が時々寄ってくれるそうだから、せっかく作った合鍵を渡して運んでもらおう。お嫁さんにも一日だけ手伝いに来てもらって業者に頼めないノートの類いを仕分けしよう。第2段階に入れる。

7月22日（土）

今後の予定が少しずつ決まってきた。アパートの片付けは、いわゆる生活用品もそのまま片付けてくれるらしい。もちろんその料金はかかるが。7月11日に退去を申し出たので8月10日が退去日になる。処分の立ち会い見積は29日（土）と決まった。それまでに必用な品を持ち帰ること。義妹が「手伝おうか」と言ってくれたので28日（金）に最終チェックでお願いする事にした。25日（火）には息子が寄ってくれる。この日の午前中は面会日。「どうしても欲しいものと大切な書類（生命保険証券など）がどこにあるか」聞いてくること。

7月23日（日）

午後3時にアパートに行った。じっとしてられない。朝用事でやってきたお婿さんに「夕方1時間ほど手伝ってもらえないか」と聞いたら「いいですよ」とのこと。運んで欲しい物を優先的に考え、まずはホットカーペットの電源を入れておいた。洋間に入り本を取り出して小さな本箱をお持ち帰り用に。でも本の重みで棚板がゆがんでいたの丈夫そうな1つだけを綺麗にした。和室に入りタンスから今後着るだろう衣類を袋に詰めた。押し入れを開けるとコピー用紙と書かれたダンボール箱にはB4の用紙がいっぱい。切手や使っていないはがきなど今後使えそうな物は持参したミカン箱に押し込んで。その和室の押し入れから木の引き出しがある。面倒だったが引き出しを開けると、なんと戸籍謄本や墓地、保険証券などの重要書類が出てきた。私が一番探していた物だ。もう本当に安心した。本籍が横浜になって入るので先日市役所に行ったときにも「一度横浜に問い合わせた方がいいよ」と言われていたのだ。結構詳しい書類のようなので落ち着いたら開いてみよう。

膨大な辞書は「全部処分」と聞いたお婿さんが「図書館に寄贈する事はできないかな。必用な人もいるだろうし」と言っていた。

7月24日（月）

先日持ち帰った手紙（といっても年賀状だが）を整理した。目的は年賀状をやりとりしている人を知るため。2023年のは見当たらないので2022年ので調べた。100均に行きはがきファイルを買ってきて姉が出した年賀状を2016年から整理した。植物画を習っていたので毎年作品展に出品したのを私がスキャナーで取り込み年賀状に仕上げた物だ。多分懐かしがるだろう。そこにもらった年賀状も入れて置いたのでこれで住所録ができる。今後住所が変わり年賀状をどうするか本人に決めてもらえばいい。私たちホスピスケアを考える会では「私のたまたま箱」というファイルがあり、その中には「いざという時に知らせて欲しい人」というページがある。ここに書き込んでおくと残された家族がわかるようになっている。姉もこの玉手箱を持っているので探すのだが見つからない。ただし、見つかっても書いてあるかどうかだが。

7月25日（火）

火曜日の10時に面会の予約をとってある。10分しかないので聞きたいことはメモに書き、それを読み上げながら確認していった。

①29日に処分の立ち会いを行うので、取っておいて欲しい物は？

最近の日記帳と黒い鞆。日記帳は床に重ねてあるとのこと。

アルバムや手紙は入らない。

②転居を知らせたい人は年賀状のフォルダーに入れて置いたので

これでいいかどうか。（OK）

③・私のたまたま箱　・楽しい朗読の資料　はもう入らない

④生命保険には入っているかどうか

よくわからないとのこと

⑤通帳を預かっているけど、現金出納簿の明細が知りたかったら書いて持ってくるけど。

知りたいので、持ってきて欲しい。次回の予約が8月1日なので、7月分をまとめて持ってくると伝えておいた。(これは私の得意分野なので苦にならない)

(荷物を整理していたら万単位のお金を見つけた。これを入金しておいたらびっくりするかな(*^_^*))

姉からの質問は

①アパートを引き払ったら自分の住所はどうなるのか

(宇宙をさまよったら困るよね)と冗談を言いつつ

・私の家にしておく。

郵便物もこちらに転送してくれるよう手配をした。

新しい保険証が届いたのもらってきた。

②このまま入院が続き、お金に行き詰まったらどうすればいいのか

・入院とアパートの荷物処分の費用は貯蓄から出せるから大丈夫。

・今後の生活は、介護認定がおりてそれに応じた介護施設に入る。

その費用は入ってくる年金の範囲内で探すから心配はいらない。

などの会話ができた。

自分が考えていた今後のことを姉も考えていたようだ。

こうして頭がしっかりしていると事は簡単なんだけどなあ。

お昼に息子と待ち合わせをして、プリンターやこたつ布団、衣類を運んでもらった。その後鏡台を整理していたら、出てきた！

東京から持ち込んだキャッシュカードや終わった通帳、年金手帳、そして現金出納帳。救急搬送される2日前まで記帳してあった。

この続きに、私が預かったのを記入していける。

7月26日(水)

頼まれていた日記帳、居間の床に重ねて置いてあった。ついでにその周りを片付けたら「私のたまたま箱」が出てきた。いらないと言っていたが何かたくさん挟んであったのでそのまま持ち帰った。後で整理しよう。この部屋にいと喉が痛くなってくる。

7月27日(木)

あと少しで片付けは終わる。いらないと言っていたがアルバムを開いてみた。実は私に関係する写真がないかと思ったから。そしたらあった。私が2歳、姉が7歳。町内の海水浴で田儀に行った時の写真だ。母に抱かれている。集合写真なので小さくてわからないがパソコンに取り込んで拡大すれば表情が読み取れるかもしれない。唯一母に抱かれている写真だ。この後体調を崩して入退院を繰り返したと聞いている。姉の大好きだった写真も1枚、額に入れたまま持ち帰った。今日は筆入れ、植物画の絵の具、色鉛筆なども持ち帰った。明日は最終日。掃除機やベランダのハンガーなども服を掛けるのに持ち帰ろう。姉の普段の生活ができるだけ変化のないようにと思って。

7月28日(金)

義妹が来てくれて最終点検をしてもらった。もうお笑い。タンスの上にハンカチで包んだ品を見て「あれは何？」「ああ、あれは義兄さんの骨壺だ！」姉に「必要な物はない」と聞いたときにこれは出てこなかった。うっかりすると業者さんにゴミと一緒に捨てられてしまう所だった。他にもいっぱい「あれは何？」があり、私が面倒くさくて開けなかった箱の中には法事でもらった茶碗セット・毛布・バスタオルセットなどが出てきた。私も持って

いる湯飲みは持ち帰って 10 個セットに。買ったまま開いてない重い箱はキャスター付きの台車。二人で階段を滑らせながら降ろし、2 時間かけて組み立てたけど、これどこで使う？ どうしてこんな物買ったんだろう。この組み立ては姉には無理だ。こうしてアパートの最終点検は終わり今度は我が家がゴミ屋敷に。持ち帰った荷物であふれかえっている。でもどこかで気持ちが軽くなり嬉しい。

7 月 29 日 (土)

アパートの荷物撤去の立ち会いに行ってきた。全部屋と押し入れ・トイレ・お風呂・お勝手、そしてベランダも調べて全部で 15 万円。私が払うわけではないので (申し訳ないけど)、これで片付けをしなくてもいいなら本当に助かる。二つ返事で「お願いします」。3 階から荷物を下ろすのが大変だと思う。ベランダの鉢など上から落としたい位だ。そう冗談を言って笑った。特に本は重い。東京にいた頃は、和室の座が抜けそうになると引っ越しをしていたから。

立ち会いが終わったらそのまま生協に買い物に行ってきた。ウナギを買いに。普段はこんな贅沢はできないが、今回は自分へのご褒美。叔母が私宛てにくれたお見舞いを使うことにした。本当にありがたい。次は 8 月 8 日に片付いた後の立ち会いを行う。最終日にアパートの契約書が出てきた。

7 月 31 日 (月)

プロバイダーのソネットにやっと繋がった。アパートを整理していた中にソネットからのお知らせがあり、ネットで辿っていったら「解約のページ」に行くことができた。そこからは電話でのやりとりで丁度 7 月 31 日付けで解約に至った。他には小冊子が転送されて来たので、明日病院に行って聞いて来よう。今後はこの転送されたものの後始末をしていけばそのうち全部終わるだろう。

8 月 1 日 (火)

今日は病院の面会日。午前中に行くと結構忙しい時間らしく着替えの最中だった。少し待って部屋に入るが今日の顔色は微妙。自分でも「今日は頭がくしゃくしゃしている」と言っていた。とりあえず 7 月の出納帳を渡し、解約手続きのとれたのを報告する。「ちくま」は、もう読まないからいらないとのこと。家に帰って解約の手続きを取ると 5 年分が前納されていた。外国のコインがいっぱい出てきたので「これはどうすればいい？」と聞いたたら「以前に海外に行ったときのものだから、もういらない」とのこと。「お嬢さんにどうすればいいか聞いてみるね」ということで納得してもらった。事務報告が終わると少し雑談。看護師さんたちも忙しくて「時間です」と言ってこないのおしゃべりできた。でも生きる気力がなくなっていた。コロナで入院された生徒さんの事が思い出される。食欲がなくなると気力もなくなるみたいだ。こういう姿を見るとどっと疲れが出る。家に帰ってぐっすり寝込んでしまった。台風の影響か風の動きが怪しい。周りが微妙な動きをしている。こんな時はどうする？ そう、いつも通り、今やることをやるだけ。

8 月 2 日 (水)

教室の生徒さんから「ヘルスメーターが壊れて最近体重を測っていない」と聞いたので、お昼休みにアパートに行き置いてきた体重計を取りに行った。そしたら業者さんが片付けの真っ最中。「どうぞどうぞ」と言われお持ち帰り。ついでに「支払いはどうしましょうか」と言われて振込先をメモってもらい家に帰るとすぐにバイクに乗り換えて ATM に直行し支払いを終えた。税込 165,000 円。帰りに差し入れのお茶と速攻元気のアミノ酸入りゼリーを買って渡してきた。2 時過ぎだというのにお昼はまだ食べていないとこのこと。区切りがつくまでやるつもりだと言われた。道理で疲れた顔をしていたな。でもそれだけではなくてガス台の下に虫がわいていると言われた。「だから丸投げしてもいいかと聞いたんです」と返事をしておいた。夕方 6 時過ぎに近くを通ったら

3 階から下ろした本がトラックの前に置かれ積み込んでいる最中。遅くまで頑張っている。明日は多分家具類を運び出すのだろう。お世話をかけます。

8 月 4 日 (金)

アパートの管理人さんから電話が入り、処分業者の人から「ルーターが残っていたけど NTT に返却ではないか」とのこと。「モデムは NTT と書かれていたので返したけど、それは違うから処分でいいです」と答えておいた。たくさんの本は 3 階のロータリーから駐車場に止めたトラックの荷台に投げ下ろしていただろう。見ていた人が教えてくれた。考えたな！

8 月 7 日 (月)

アパートから持ち帰ったミカン箱 2 つを片付けた。年金手帳や介護保険証なども出てきたので私のたまたま箱に入れた。装飾品は背の低い箱があったのでそちらにまとめて入れ、日記帳は持ち帰った木箱にまとめた。捨ててもいい紙類はゴミに出せるようにして少しすっきり。後は梨の箱に入っている絵の具と色鉛筆などをどうするか。

8 月 8 日 (火)

今日はよく働いた。まずは 10 時半にアパートで待ち合わせ。荷物が撤去された後の修理の立ち会い。12 年も住んでいたのが最終的には「自然劣化」ということになって 128,000 円の権利金の中で納めてくれた。7 月 11 日に退居の申し出をしたので 8 月 10 日で契約解除という事になった。8 月末まで支払ってあるので日割り計算で戻してくれるらしい。これでアパート契約に関しては全部終わった。その足で病院に行き報告をする。そして「出雲の土地はどうするのか」「本籍が横浜になっているけど今後どうするか」と大切な話をする。その結果「土地はいらない」「本籍は岡崎に移してもいい」ということになった。すぐに岡崎支所に行って「本籍転籍」の書類と「現住所変更」の書類をもらい説明を聞いてきた。現住所変更は、本人の委任状が必用だとわかったので用紙をもらい 14 日の面談の時に書いてもらうことにした。本籍の転籍届は、本籍地から戸籍謄本を送ってもらって添付しなければならないとわかったので、午後早速横浜市役所に電話をして説明を聞き、必要事項を 4 点聞いてパソコンで打ち出し本人確認の取れる保険証をコピーして貼り付け、小為替と返信用封筒を同封して送っておいた。14 日に全部書類が整うと作業は次に進める。

8 月 9 日 (水)

朝から出雲の JA に電話をしてわずかばかりの田んぼの処分について相談をした。①持ち主（姉）の住所が変更になったのでその手続き方法。②この田を売却できないか の 2 点について。夕方売却の件で連絡が入った。宅地申請をして売却するか、そのまま田として売却するか。話を聞いても決められないので誰かに相談してから後日連絡するという事で一旦電話は切った。須山木材を経営していた従兄弟に電話をすると「宅地にすると固定資産税が高くなるので売れるまで払い続ける事になる。今借りている人に買ってもらえないか係の人に相談してみたらどうか」という知恵を授かった。相談して良かった！

まずは 14 日の面談の後で本籍の移籍と住所変更を提出し、その後司法書士に相談して登記権利証書の書き換えを行い、その後田の売買の話をする事にした。嘆き節を吐くと「そのうちいいこともあるから」と笑いながら慰められてしまった。

8 月 10 日 (木)

今日でアパートの契約が切れた。注文してあった出雲そばを持って大家さんの家に挨拶に行って来た。東京から引っ越して 12 年。こちらは娘二人の同級生の家でもあるし昔からの知り合いだったので、とても良くしてもらった。その後の経過を報告しお礼を言って帰って来た。

8月11日（金）

D-2 に行って衣装ケースと書類入れを見てきた。安いのは引き出しの底がベコベコしているし開け閉めがまっすぐに行かない。「これなら」と思ったのは希望のサイズよりも横幅が広がったがこれが標準なのだろう。写真に撮っておいたので本人に見せて了解がもらえたら買ってこよう。滑り止めと別売りでキャスターがついていた。

8月14日（月）

共立病院で、ケアマネさんと福祉事務所から来た人と面談が行われた。病室には一人しか入れず、70項目からなる質問事項を本人に確認しながら調査されたようだ。その後病室に行き自筆の書類を見せて書いてもらう。顔を見ると相当困惑していて今までにない不安な表情を見せていた。いきなり知らない人が来て、あれこれ聞いていったので何事かと思ったのかもしれない。書類に記入するアパートの住所が思い出せないといけなかったので答えをパソコンで打ち込み文字を大きくして印刷していった。「これを見ながら書いて」と言うのだがなかなか頭が回らない様子。「これって何のこと？ 訳わからん」と戸惑った様子。「住所を西田に移動するための書類だよ」と言っても今回は通じなかった。とりあえず書いてもらい、面談が終わるとそのまま支所に行き提出して8月14日付けで住所移動ができた。今日の面談の結果は1ヶ月後に結果が出る。その後のことはその時に考えよう。

本人は少しなら歩ける事がわかった。車椅子で連れて行ってもらいリハビリもやっているそうだ。今度行った時にどんなことをやっているか聞いてみよう。

8月16日（水）

お盆が明けたら待っていた書類がどっと届いた。横浜からは戸籍謄本がやっと届いたので明日はこれを支所に持って行って本籍を移動する。病院からは7月6日からの入院費の請求書が来たので明日支払いに行ってください。今日から住所移動の連絡を始めたので、コープあいちは住所変更と藤田の入院費請求をお願いしたので書類が送られてくると、自筆の部分に注意をして書き込み返送。入院費については必用事項が全部満たされている領収書をコピーして返送すること。葬送の自由をすすめる会は、電話をしたらHPを開くとそこからメールで手続きができるというのでやっておいた。本籍を移動したら次は土地の登記書類の変更をしてから売却の手順に入る。一休みできたが、ここに来てまたどっと作業をする事になった。

8月17日（木）

共立病院に支払いに行ってきた。後期高齢者被保険者証を提示するよう言われたが住所移動したので赤い印鑑が押してある。正式な保険証が後日送られてきたら見せて欲しいとの事だった。そのまま向かいの支所に行き、横浜から届いた戸籍謄本と一緒に移籍の書類を提出する。本庁の方から横浜への手続きになるので正式に謄本を手にするには4~5日はかかるらしい。ただ本籍の記載された住民票ならすぐにでも手に行うことができるそうだ。役所への手続きは一応終了した。

8月18日（金）

住民票の移動と本籍の移籍が終わったので土地の登記申請をするために司法書士に電話で話を聞いた。ネットから書類をダウンロードして自分でもやれるようだが、そんな根気はないので話だけ参考に聞いた。その後出雲のJAに電話をして本格的に売却の希望を伝えたと現状がわかってきた。父が売った土地は買った人が高齢化し姉の土地を耕作している人が全部（200坪）を引き受けて管理しているようだ。だから姉の80坪だけを売却は難しいだろう、とのこと。今年で使用期限が切れるがすでに来年からの継続手続きは終わっているそうだ。ただ念のために買ってくれるかどうか聞いてみるとの事で後は返事待ちとなった。

8月20日（日）

住所変更をしたので、赤い印鑑が押された「高高齢者医療被保険者証」だったが、19日に新しい住所の保険証が届いた。古いのは返却する必用があり、返信用の封筒も同封されていたので早速返却しておいた。次回病院に行ったときに、忘れないで新しい保険証を提示しないと。

8月21日（月）

生協から2通の封書が届いた。1通は住所変更、もう1通は入院給付金申請の書類。これに目を通してかける所は書き込み、自筆の箇所があったら病院に行って書いてもらおう。手紙も転送されてきた。年賀状で調べると学生からだ。これも住所変更を知らせるかそれともお仕舞いにするか本人聞いて処理をしないとイケない。事務手続きがまだ続いている。

8月22日（火）

病院に行ってきた。今日は正常(*^_^*)。生協の書類2種類、自署が3ヶ所あったのでまずは最初にその作業をする。そして学生からの手紙が来ていたので「後でゆっくりと読んでね」と言って渡し、今後どうするか聞くと「住所が変更になったことを知らせて欲しい」とのこと。やっぱり繋がっていたようだ。最優先事項を済ませ、ゆっくりと話しをしようと思ったら「時間です」とつれないストップがかかって二人で苦笑いをして分かれた。家に帰ると午後からは、書類を仕上げ、ご無沙汰している従姉妹とこの学生にハガキを書き姉の作業を終える。夕方投かんしてこよう。

8月23日（水）

アパートの管理人さんから「先日立ち会ってもらったけど修理代の方がことのほか多く追加をお願いしたい」という連絡が入った。そのときは「自然劣化で処理します」と業者の人が言われて、正直「いいのかなあ」と思ったけど一方で「ありがたい」とも思って承認した。「あのときに自然劣化で良いと言われたけどそれを今頃追加というのは軽率ではないですか」と強気でひとこと言って訳を聞いた。こちらが払う分から預けてあった管理費を差し引き、日割り計算で戻分の家賃を引き足りない分の46,000円が追加になった。振込先と詳しい内容を書いた手紙を送ってくれるらしい。大家さんとは知り合いなので迷惑はかけられない。少しぐらいは払わないと申し訳ない。床板も壁も畳もすごく傷んでいたから。支払うことで逆に気持ちが落ち着いた気がする

8月26日（土）

暮らしの学校から「エガオライフ秋号」が送られて来た。内容はほとんど講座のお知らせだったので電話で中止の電話をする。

8月28日（月）

岡崎市役所 介護保険課から要介護認定の結果が「3」で来た。せいぜい1か2だと思っていたのでちょっとびっくりした。すぐになのはな苑に電話をしたがすでに6時近かったのでケアマネさんは帰られた後。明日、今後の事について相談することにする。「3」だったらなのはな苑でも対応してもらえうが空いているかどうか問題だ。最初になのはな苑で相談をして情報を入手してから共立病院のケアマネさんに相談しようと思っている。動き出した！

8月29日（火）

午後に介護事業所の人に来てもらい「介護認定3」となった事を報告し今後何をすればいいか相談した。

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）に申し込む

1. 同時進行で、市役所介護保険負担限度額申請書の提出する。

提出書類をもらったので書き込み、市役所に電話をして何を持って行けばいいか確認した。

・特養の場所を調べ持参する書類は介護保険証と印鑑を確認できた。

担当者が不在の場合があるので行く前に電話をしてから行くこと。

・一方で共立病院の看護師さんに今やっている治療を聞いたが、先生じゃないと答えられない、ということなので一度先生に相談して退院の見込みと要介護3と決まったので今後の事を相談すること。

・今日面会に行ったが、少し不安な表情だった。話しをしている内に明るい顔になったが毎日何を考えて暮らしているのかなあ。

・早稲田大学ホームカミングデー記念式典の出欠席の案内が来た。

今後とも出席はできないので名簿からの削除をお願いした。

8月30日（水）

なのはな苑に入所申込みをしてきた。現在220人の待ち。長い人だと2年くらい待っているとかな。希望薄を感じて暗澹たる思いで帰宅する。

8月31日（木）

今日はまず市役所に行って「介護保険負担限度額申請書」を提出しその場で「介護保険負担限度額認定証」を発行してもらう。次に大平町にある「アルクオーレ岡崎大平」に行き入所申込みを行う。まずは名刺とパンフレットをもらい説明を聞き、質問に答え、今後の流れを丁寧に聞かせてもらった。共立病院から退院したらショートステイに入れること、ロングでも視野に入れましょうとも聞いた。ケアマネさんとも連携が取れているようだったので、家に帰り電話をするとすでに連絡をもらっている雰囲気だった。共立病院に電話をして「院長先生に面会したい」旨を伝え、火・木が面接日ということで5日に予約が取れた。（もっと早くにコンダクトを取れば良かった）とつくづく思った。昨日と打って変わって先が見えてきたので、やはりとにかくこちらが動かないといけない、待っていては駄目だと言うことがよくわかった。

9月1日（金）

松江に住む従姉妹からお見舞いの品が届いた。中に手紙が入っていて「姉と話しがしたいから面会に行ったときに電話をして欲しい」と書いてあったがそれはできない。お礼の電話をして現状を報告しておいた。

アパートの管理人さんに電話をして「修理費の不足分を払って欲しい」と言われ、詳細と振込先を書いて送ってくれることになっていたがちっとも来ない。電話をしたら「順次送っているのもう少し待って欲しい」という事だった。退居された人が多いのかな？ ついでに「電気・ガス・水道の停止はやってもらえましたか」と聞いたらそれは入居者がやることだったらしい。びっくりして即刻中部電力に電話をした。「ブレーカーを落としてください」と言われたが、もうアパートの鍵は返したので中には入れない。それなら「こちらで強制的に停止しておきます」と電話での手続きで終えた。もしかしたら退去後も業者さんが入って作業をやるのに、エアコンはついたままになっていたのだからクーラーは使ったかもしれない。この暑い中の作業はエアコンなしでは無理だと思うので熱中症を防ぐ意味でプレゼントと思うことにした。それにしても取りこぼしが一杯ある。少々お疲れ。

パナドームの福祉部門の人と、9月4日午後4時過ぎ〜今後の相談をする事にした。

9月2日（土）

夕方優ケアの鈴木さんが来て、退院した後すぐにショートステイができないかもしれないと、デースービスの案内を持ってきてくれた。情報をたくさんくれるのはすごくありがたいが頭が混乱しそうだ。

9月4日（月）

パナドームの介護部門の人と優ケアの鈴木さんで顔合わせを行う。明日5日に共立病院の先生との面談が予約してある。これで退院が決まると一気に動き出さらしい。まずは契約をしないと利用ができないが本人の様子がわからない。トイレや食事の介助、歩行はどんな様子か、私さえもわからないから雲をつかむような話した。互いに注文してからどれくらいの日数が必用か話しをして1時間ほどで打ち合わせ終了。まずは明日の面談からすべてが始まる。

テレビの位置はこのままということになった。ベッドの大きさもわかったので家具の配置を今日は決めよう。

9月5日（火）

待望の先生との面談の日を迎えた。1時間遅れで12時半から始まる。その前に病棟に寄って姉と話しをしていたら看護師さんから「入院診療計画書 令和5年7月6日」を手渡された。「なんで今頃」そこには今日聞いたかった「・病名 ・症状 ・治療計画 ・推定されるリハビリテーション期間」などが記されていた。これを早くに渡されていたら今日の面談は必用なかったかもしれない。「退院したい」旨を話したが「今退院しても、在宅であなた一人で面倒見るのは無理でしょ」と諭され「財政的にも難しい」と話したが「今特養には入れないから有料老人ホームに行けば月20万はかかる」とこちらの意図は通じなかった。「10月末まで様子を看させて下さい」と丁寧に返事をもらい受け入れるしかなくデースービスやショートステイを利用する話しはできずに終わった。（共立病院にもケアマネさんがいることがわかっていたから）家に帰ってから住みやすいように模様替えをしたりして受け入れ体制を整えていたので帰宅するとどっと疲れが出てしまった。でもほっとしたような残念なような複雑な気持ち。ケアマネさんの方が一番がっかりしたかもしれない。出番がなくなったのだから。また1週間に一度面会を続ける日が続く。

9月7日（木）

アパートから持ち帰った衣類がそのままになっていたの、やっとな衣装ケースに片付けた。しかし、洗う頻度が少なかったのか冬物のトレーナーなどは袖口や襟が黄ばんでしまつてとても着られる物ではない。同じ柄のが3枚もあってどれもこれも同じだ。好んで着ていたのを知っているのとあえず処分品の箱を作つてこちらに入れて置いた。片付けながらくしゃみが止まらない。天気の良い日に一度全部洗つた方が良いかもしれない。

9月9日（土）

福岡学区の敬老会に出席したら大家さんに会い、姉の封筒を渡してくれた。中には福岡振興会の金券が1000円分入っているので、病院から帰ってきたときにお寿司を注文して食べる事もできる。楽しみだ。

9月12日（火）

朝から病院に行くつもりでいたけど雨が止まない。結局午後2時過ぎに小降りになったのを確認して出かけた。病室では服を着た姉が。「どうしたの?」と聞くと「リハビリに行くときは服に着替えるけど面倒くさかったからこのままにしている」と言う。そうなんだ、リハビリは服に着替えて行くのか。段々と快方に向かっている様子。お隣のベッドには新しい人が入っていた。何だかずっとわめいている。「ここから出して欲しい、ずっと夜中もあの調子で頭がクシャクシャしそう」と姉は嘆いていた。帰りに看護師さんにちょっと話しておいた。敬老会でもらった金券は財布に入れておくように伝えしうのを確認してから「家に帰ってきたらお寿司でお寿

司でも買ってきて食べようね」と言っておいた。すぐに看護師さんが「時間になりました」と言う。10分なんてあっという間。廊下で待っているの、未練を残しつつ病室を去る。

9月14日（木）

JA 出雲から電話があった。「来年から3年間続けて畑を管理してもらう貸借書類を送るので、必要事項を書いて送り返して欲しい」という連絡だった。「この人に畑を買ってもらえないか聞いてみて欲しいと」頼んであったので聞くと「それは難しい」という返事だった。また元に戻った。もうこれを考える根気はない。

カシミヤのセーター2枚クリーニング。

9月26日（火）

NTT 西日本とドコモから口座引落の通知が届いた。両方ともすでに解約してある（電話は7月9日に解約）ので、気になって電話をしてみると締め切りの関係でこの時期になったようだ。

1時過ぎに病院に行った。相変わらず部屋は臭う。昼食後で寝ていたらしくて起こしてくれた。一瞬ボートしていたので時間を間違えたと思ったがもう仕方ない。先日渡しておいた手紙の「トイレは自分で行けるようにする事。オムツはパンツ式のにしてもらうこと」この意味がわからなかったらしい。「パンツ式のを持ってきて貰おうと思ったけど電話ができないので困っていた」と言う。「何でも看護師さんに言えばいいんだよ」と伝えておいた。同じ事を何回も繰り返し言う。10分の面会時間を全部使ってオムツの話だけをして帰って来た。看護師さんには来週10月3日に先生の面談を頼んできた。医療行為は何をしているのか聞いたが、点滴があるとか注射があるとかは無いし、リハビリも毎日ではないらしい。毎日ベッドに横になっているだけの3ヶ月。私には耐えられない生活だ。早く家につれて帰りたい。

9月28日（木）

特養のアルクオーレから電話が入った。ケアマネさんには「10月末退院」と伝えてあったので10月末を目処に入所の手続きを進めてくれるそうだ。病院から直行でも大丈夫と聞いた。そのための書類の用意が必用。①退院の日程を聞いてくること。②病院で「診断書」を書いて貰うこと。③アルクオーレから病院に行き本人との面談を行う。などを教えて貰った。今日早速病院に電話をして診断書の件を聞いてこようと思っている。そしてケアマネさんに連絡をして今後の事を具体的に相談する事にした。「10月に入ったら」と思っていたがこうして周りの人が動いてくれるのがすごく嬉しいし気持ちが楽になる。

9月29日（金）

病院に電話をして「診断書を書いて欲しい」とお願いしたら、「3日に先生の面談が予約してあるのでそのときに直接先生に頼むように」と言われた。先生しか受け取れない仕組みになって入るのかと不安になる。退院の許可も下りるだろうか。9月19日（火）

面会時間が10分と少なく、大事な話ができないので今日は手紙を書いて持って行った。行くとすぐに「聞きたいことがあった」と待っていた様子。「ここを出るときに、私は土地勘がないしアパートには戻れないし、自分でどうして良いかわからない」と言う。「心配いらないよ。帰る時には私が迎えに来るから」と言う。「帰る。嬉しい」と、「帰る」と言う言葉が嬉しかったみたい。そうだなあ。入院したら拠点だったアパートを引き払い今は帰る家がない状態。現住所を私の家にしたけど帰るという実感はないかもしれない。「家に帰る条件が手紙に書いてある。後でゆっくりと読んで」と渡して「トイレはどうしてる？」と聞くとオムツ式パンツをはいていて汚れると取り替えてもらっているらしい。「自分でトイレに行かないの？リハビリになると思うよ」と言ったが「ここにはトイレがないかと思った」という返事に笑ってしまった。「病院にトイレがないわけがないでしょ」

これからは受け身にならないで自発的に「トイレに行きたいから手伝って、と言って自立できるように頑張ら

ないと我が家で受け入れは無理だよ」と伝えておいた。手紙にもそう書いてある。認知症だとわかった時に「叱咤激励するのは止めよう」と切り替えた。倒れてから2ヶ月が経つ。そのときは我が家に引き取るのは一晩たりとも無理、と強く思ったが今はトイレさえ自力でいければ受け入れようと気持ちを切り替えた。少しずつ前に進みたい。

JA 出雲から土地の貸借契約書が送られてきた。住所変更と印鑑だけなのでこちらでやっておくことにする。22日までに返送。

10月3日（火）

今日は先生との面談日。「何を話したいのか」と言われたけれど「10月末までリハビリをやるということでしたので、その後退院できます？」と聞いたら「あんた一人で面倒は見れないでしょ」と先回とおなじ事を言われた。そこで「特養で入れそうなところがあるので話しを進めたい」と伝え、介護支援専門の人を呼んでくれてそちらと話しを進める事ができた。今後の作業としては9月28日にも書いたが ①特養で預かってきた診断書を書いてもらう ②特養の人が病院に行き姉との面談を行う ③施設の方で会議を行い入所の可否を決定そして入所となる。ケアマネさんにも連絡したら「良かったね。多分大丈夫だから。病院から直行もできると思う」という事だった。以前なら絶対に家では預かれないと思っていたが、認知症とわかった時点で私の覚悟はできた。一旦家に帰って荷物の整理と一緒にしたいのと病院では食べられない美味しい物を作って一緒に食べようと思っている。そして従姉妹たちに電話をする。

6日は姉の誕生日。当日は病院に行けないのでプレゼントにリハビリ用の靴を買って渡したが、今使っている私の靴が気に入っていてこちらの方が良いようだった。サイズも大きすぎたので取り替えて貰おうかな。（もしかしたら、いかにもリハビリ用というのが気に入らないかもしれない）

10月5日（木）

プレゼントで渡したリハビリ用の靴を取りに病院に行ったら、すでに履いてリハビリを行ったようだ。かかとが汚れていたので取り替えられない。婦長さんがリハビリの先生に聞いてきてくれて「この靴で大丈夫」とのこと。そして本人にも聞いてくれて「とても履き心地がいい」と気に入ってくれたようだ。迷うといけなからと今まで使っていた私の靴はお持ち帰り。かかとがすり切れてしまい返して貰ったものの履く気がしなくなった。とりあえず誕生祝いは成功♪



10月6日（金）

アパートの管理会社から修理が終わり不足分の請求書と確認の書類が届いた。私宛てなので書類にサインをし押印をしてポストに投かん。そのままATMに行き姉の通帳から振り込んでおいた。修繕費が236,500円。預かり金などを差し引き不足分が67,297円。これでアパート関係は全部終了。いろいろな人にお世話になり、人が生きていくことでどれだけの人と関わりを持つかを実感した出来事だった。認知症になり部屋の管理もできなくなり、救急車で運ばれると自力では何もできなくなる。人生の末路を見せてもらい私の人生観も変った。どこまで努力して自力で迷惑を回避できるのか。それらを迷惑と捉えるか、ただただお世話になりますと感謝と捉えるか。自分への問いかけはまだ続く。

10月10日（火）

病院に行って来ました。認知症が進んでいる様子です。以前に渡した「退院の条件」を書いた手紙を後生大事に持っていて「オムツはパンツ式にしてもらい、トイレには自分で行けるようにリハビリすること」が気になっていたようです。特養に入れそうなのでこの条件はもういりません。手紙はこちらに受け取って「トイレの心配はいらないから。次に行くところが見つかったから10月中に退院できるよ。アルクオーレの市丸さんが面会に来るから会って話しをしてね」と名前を書いたパンフレットを渡しておきました。なお心配そうな顔をしているけどもう時間です。もう少しいて心配を解きほぐして帰りたいのですが看護師さんがそばにいないので帰らないと。夏服を持ち帰り長袖のシャツを置いてきました。見ていた看護師さんが「衣替えだね。寒くなったから」とフォローしてくれました。誕生祝いで渡した靴はとても気に入ったようです。「履きやすくてとても歩きやすい」と満面の笑みを浮かべてお礼を言ってくれました。

10月13日（金）

インフルエンザとコロナワクチン接種の案内が来ている。私はやらない人なのでそのままにしておいたが、特養に入るとその事業所の考え方があるかと思い電話を試みた。「インフルエンザはまだこれからなのでこちらでもやれるけどコロナワクチンは17日までなので、もしやるつもりなら病院にいる間にやっておいてください。」という事だった。それならやめておこう。ついでに診断書も含めその後の予定を聞いたら「病院の方から「診断書は面談の時に渡します」と言われたので来週半ば頃に行く予定」とのこと。入所は11月6～7日あたりになりそう。できれば10月中にと思ったが難しいらしい

10月17日（火）

ドコモから10月分の請求書が届いた。8月に解約したはずなのに。先月も請求書が届いて「あれ？」と思ったが締め切りの関係と勝手に解釈して次を待つことにしたら解約手続きがとれてなかったようだ。解約と同時にクレジット会社も解約したので引落ができなくて振込用紙で支払い書が届いた。ドコモに電話をして調べると、クレジット会社の解約はできて肝心のドコモはそのままになっていたらしい。解約の手続きは①本人が店頭に行く②代理人を立て委任状を渡すの2つの方法があるらしい。ネットから委任状をダウンロードして病院に持って行ったが、8月分の請求書がまた届くとしたら、特養に入ったら携帯は持っていた方がいいのではと思い始めた。使い方は私がきちんと教えればいい。解約は延期とした。

今日は9月分の支払いに行った。24万弱。室料の7月分が途中から入院したのに93,000円となっていたので受付で聞いた。入院から20日までが4,000円の部屋で21日から3,000円の部屋に移動したので合計が93,000円となったらしい。部屋の違いは歴然としている。広くて一人部屋でとても良かった。ドコモと部屋代の件、2つとも納得。

朝パナドームさんが姉の誕生祝いにお米を持ってきてくれた。11月に入ると特養に入れるので、その時はテレビをお願いしたいと伝え、衣装ケースと部屋で使う台が自分では運べないので困っていると言うと「一緒に運んであげるよ」と言ってくれた。思い悩んでいたことが全部解決した。皆さんありがとうございます。

10月23日（月）

介護事業所の担当者から電話がはいった。「病院に面談に行って来ました。一度こちらに来て欲しい」という事だったので明日行ってこよう。「この期に及んで入所できないなんてことはないでしょうね」何の話しか少々不安を感じながら、入所の荷物など聞きたい事があるので丁度よかった。もし許されるなら部屋を見せてもらって、今後自分の住処となる所を写真に撮り姉にみせてあげたい。

10月24日（火）

アルクオーレに行ってきた。書類作成に緊急連絡先を全部で3箇所明記して欲しいという事だった。本人との面談も終わり書類も全部整ったので今日の午後には会議にかけて正式に入所日を決める。決まり次第すぐに連絡をくれるとのこと。その後正式に契約書を取り交わすのでもう一度行くことになった。できれば娘と一緒に行って場所の確認と雰囲気を知っておいて欲しいと思っている。

ついでに持参する荷物についても聞いたら、契約日に荷物一覧をくれるそうだけど今日渡してくれた。ベッドとそれに付随する布団や枕は、全部貸してくれるそうだ。衣類はほとんど処分したので新しいのを買う必要がある。アルクオーレの帰りに共立病院に行ってきた。「今日は何しに来たの？」って。認知が進んでいる。丁度リハビリの最中だったのでそのまま談話室で話しをした。「病院からそのままアルクオーレに行けるけどどうする？」と聞いたら初めて「それは嫌」ときちん意思表示してくれた。念のために聞いただけで私の気持ちも決まっていたので良かった。「何が食べたい？」と聞いたら「清ちゃんが作る物なら何でもいい。」だって。

我が家に帰れるのはもしかしたらこれが最後かもしれないから自分にも悔いのないようにしておきたい。

10月25日（水）

アルクオーレから電話がかかってきたので入所日が決まったのかと思ったら「肋骨が折れているのは知っていましたか？」と。「脳梗塞の後がいくつか見られるけどこれは知っていましたか？」と確認の電話だった。骨折の話はびっくりした。2〜3週間前に「左胸が動く痛い」と言っていたのでそのときの事かな。脳梗塞の話も初めて聞くのでこれもびっくり。それらが認知症に影響を与えていたのだろうか。「いつ頃から認知症と分かりましたか？」と言われ「コロナで家に集まらなくなった頃かな。身なりにかまわなくなったので」と返事をおいた。2つの病状については共立病院での検査で分かっただろう。どちらにしても今はこうして保護者の立場をしているが、それまでは自力で生活していたので詳しいことは何も知らないし分からない。結局入所の判定は今週末か来週の頭に延期になった。

10月26日（木）

アパートから持ち帰った衣類が衣装ケースに入っている。入所に必要な衣類が分かったので中身を点検し必要な物だけ洗濯をした。次はこれらに名前を書く作業があるが、黒い靴下などには書けない。ネットで調べると「肌に優しいサージカルテープ」を貼ってその上に書くといいとあったので買ってきた。そういえば病院でも靴下のかかとの部分にテープを貼って名前が書いてあった。

10月27日（金）

義妹に来てもらって一緒にイマジンに服を買いに行ってきた。前日に何がいるか書き出し、生協のパンフレットから良さそうな物を選んでおいた。パジャマの暖かそうなものがある。洗濯できるニットの服とカーディガンとのアンサンブルのセーターもいいのがあった。問題はズボンなのでこれは買ってこよう。イマジンにユニクロはなかったので適当に入った新しい店は格安の店だったようだ。必要な物を選んで買ってきたが、これらを姉に着せるのかと思うと何だかちょっと悲しくなった。いつもいい物、気に入ったこだわりの物を着ていたから。「まあ洗い替えに」と自分を納得させ後は日常姉がどれを選んで着るかは任せよう。外出する事はほとんどないので好きな服を着ればいい。一応日常生活を聞いてみたら「寝間着と服は着替えます」と言われた。食事は10人がユニットになっているので食堂に行ってみんなと一緒に食べるそうだ。おしゃべりの相手ができるといいな。

10月30日（月）

月をまたぐといけないうので仕事が終わってからドコモの携帯を解約に行ってきた。委任状が必用なのは分かっていたので用紙をもらいに店に行くと、本人に書いてもらう箇所をマーカーで印つけて渡してくれた。病院に行き、看護師さんに最初から「書類を書いてもらうので」と伝えておいて、ゆっくりと説明をしながら書き込んでもらった。指に力が入らなくなっている。杓が小さいのはみ出しながら書いてもらった丁度 10 分で面会時間終了。しゃべり出したが、ジリジリと入り口に退席。ただし福岡町でしか使えない金券だけはもらっておいた。「退院したらこれでお寿司を取ろう」と言ったら「最近お寿司なんぞ食べたことがない」と嬉しそうだった。そうだよなあ。少しでも楽しみがあると日々が過ごしやすいだらう。

それにしても入所日はまだ決まらないのだろうか。気になる。

10月31日（火）

アルクオーレから連絡が入った。入居が決まった。「大変遅くなりました」とまず一言あったのであちらも遅くなったことは自覚していたようだ。明日は午前と夕方仕事があるが午後2時に正式契約の約束をした。この間お世話になった優ケアの鈴木さんにも入居が決まったことを知らせたら「良かったね」と喜んでくれた。

11月1日（水）

2時の約束だったが30分前に行った。膨大な資料をもらい、忘れるといけないうですぐにでも書き込みたかったが仕事でできず。終わったら疲れたのでやっぱり明日ゆっくりと目を通して書き込もう。病院の方にも退院の連絡をしないといけなかったがすぐに仕事に入ったら、あちらからかかってきた。アルクオーレから連絡してくれたようだ。医療経過や薬の依頼もあるからだ。人一人が動くだけでこれだけの人が関わってくるなんて、本当に人間って大変なんだね。

11月2日（木）

100 鈎に行き、お茶碗とコップ、箸を買ってきた。少し厚めの丈夫そうなものを購入した。一緒に A4 ファイルも買ってきたので「私のたまたま箱」を2冊作って、お世話になったアルクオーレと優ケアセンターの鈴木さんに渡そうと思っている。ネット上にデータが公表してあるのでそこから印刷をやってみたら、ページが抜けていたり表紙がなかったりで今その訂正をやり始めたので、提出書類や荷物の準備が全然やれていない。

11月3日（金）

朝から衣装ケールとテーブルを動かし、中身を点検しながら服には名前を書き込んで仕舞っていく。昔子供たちの入学時に全部の品に名前を記入したことを思い出し、何だか保護者になった気分だった。伸びたパジャマのゴムは入れ替える。最終的に気がついたのがズボンの本数が足りないということ。普段着はすべて5着となっていた。私の持っているズボン横流しでいいか、と買い足すのは止めた。フェイスタオルも5枚だが、これも足りない。バスタオルがいっぱいあったのでこれを切って使うことにした。休憩を挟みながら結局荷物の準備だけで一日かかってしまった。

11月4日（土）

やっと書類の書き込みが終わった。きっちり2時間かかったのでボールペンを持つ手と肩が痛くなってきた。持って行く荷物はまとめたが持って行かない物を引き出しから取り出したので部屋が混乱状態になって入る。こういう時に得てして大事な書類をどこに置いたか分からなくなる。以前には考えられなかった事態が最近よく起きて自分を信じるができない。こちらこそ認知症が起きているのではないかと不安になる。持って行かない荷物もいらない訳ではないので、姉専用空いているボックスを決めて全部そこに収めておこう。孫たちに、買

ってきた茶碗とコップ、箸・スプーン・フォークに何か絵を描いてと頼んでおいたら、花の絵を描いてくれた。そこに花や果物のシールを貼ったので使う度に（*^_^*）となればいいかな。名前を書こうと思ったのに昨日使った油性ペンが見当たらない。あ～あ。

11月5日（日）

提出する書類を全部確認し1つのファイルにまとめる。介護タクシーに電話するも出ず。いつもお願いしている名鉄タクシーに電話しても断られたので、いつも「なんちゃん困ったときは言いなよ」と声をかけてくれるご近所さんをお願いした。夕方ネットで検索すると岡陸タクシーがあったのでこちらにかけたら「7日の午前10時出発、行き先はアルクオーレ大平」で予約が取れた。本当に嬉しかった。これで足の確保はできた。部屋を片付け掃除をして干してあった布団を居間に運び寝る場所を作る。明日迎えに行くときに持って行く服もまとめておく。落ちはないかと落ち着かない???。あった、インフルエンザの申込書がどこを探しても無い。入居の時に持って行くのでバインダーに閉じた気がするが。

11月6日（月）

いよいよ退院だ。ご近所さんに乗せてもらって病院まで迎えに行く。受付を済ませ3階に行くと看護師さんが着替えを取りに来てくれて「談話室でお待ちください」とのこと。着替えを済ませるとリハビリの人が来て・階段の昇降・布団からの起き方・トイレの介助などを実践で教えてくれた。受付からの連絡で先生の診察。（院長先生ではなかった）。飲んでる薬の説明（睡眠導入剤・痛み止め・胃薬の3種類）をされたが「報告の様子をみると薬は止めてもいいのかもしれない」と言われたが速効姉が口を挟む。「眠剤は欲しい」と。「眠剤、命の人です」と言ったら「様子をみて判断してください」。紹介状が4通。①共立病院を紹介してくれた若松町皮膚科 ②アルクオーレ担当者 ③アルクオーレのかかりつけ医に紹介状 ④このかかりつけ医への病歴 説明が終わると再度3階に上がって荷物をまとめ帰宅の途につく。途中カネキチに寄ってもらってお寿司を購入し、家の階段を用心しながらやっと玄関に辿り着いた。運転をしてくれたご近所さんにもお寿司を渡して部屋に入る。休憩をして買ってきたお寿司を二人でぱくつくと食べる、食べる。びっくりした。「無理して全部食べなくていいよ」と止めるくらい。その後従姉妹と叔母に連絡をしてお昼寝。爆睡の様子だった。夕食の前にもう一人の従兄弟に電話。心配をかけた出雲にはこれで報告ができた。子供たちにはLINEで全員に退院の報告をする。姉用の衣装ケースを開けながら1段ずつ説明をする。内容のシールを貼っておいたので「よく分かる」と言っていた。みたことのない服が入っているので「5枚ずつ必用とのことだったので買い足した」と話しておいた。

明日は「アルクオーレに行くからね」と言うのと「ここでいいよ」と言う。「ここでは私が面倒を見れない。これから二人とも歳を取っていくと共倒れになるといけないからね」と言って納得させる。名前が覚えられないようだったので「アルク」両手を広げ「オーレ」と言って二人で大笑い。下で何かあるといけないのでパソコンの部屋に布団を運び込んで私はこちらで寝る。

11月7日（火）

沢山の人の手を借りてアルクオーレ岡崎に引っ越した。荷物を運び込む間私たちはホールで待っていると係の人が4人集まって「ここで会議を行います。」と共立病院から持参した紹介状の内容について確認し、今後の食事、薬やリハビリなどの相談の確認を行い、こちらの希望も聞かれて1時間ほどでやっと部屋に入った。食堂では食事の最中で、一人一人に紹介をしてくれた。部屋は4階の眺めの良い部屋で、持ち込んだテレビも設置されタンスに入れてあった写真も飾られ、コートはすでにハンガーに掛けてあった。姉は部屋に入るなり窓からの景色に歓声をそのまま声をかけるまでじっと外を眺めていた。気にいたようだ。毎日過ごす所なので良かった。帰りは迷子になりそうな建物に担当者がエレベーターまで送ってくれて、ホッとした気分と開放感を味わいながらバス停まで歩くこと30分、バスを乗り継ぎながら2時間かけて家に戻った。昼食抜きでマッサージ機に直行。

爆睡。3時半頃電気屋さんが来てくれて、頼んであった「兼坂」の認め印があったと届けてくれた。数カ所回ったらしい。しばしお茶に付き合ってもらっておしゃべりをする。お世話になったケアマネさん、車を出してくれたご近所さん、子供たちには LINE で引っ越しの報告をし夜は義妹にも電話をしたら、「もうかかってくる頃だと待っていた」ということで、戦場のようだったアパートの片付けから事務手続きまで私がやってきたことを全部知っているのだから「よく頑張ったね」と労をねぎらってくれた。

自分の手から離れ、専門の人にすべてを託し、今はホッとしたような、寂しいような、人生の末路を思い複雑な心境だ。出雲から東京に出て 50 年。岡崎に来て 12 年。その岡崎の地で最期を迎える終の棲家への引っ越し。自分の最期はどんなことになるのか、今後の自分の人生と重ね合わせ姉妹でありながらも全く違う生き方を思い返している。

あれだけ暑かった今年の秋、昨日あたりから風邪が冷たくなり今日は立冬。

11月8日（水）

アルクオーレに送り込んだので何もする事が無いかと思うとそうでもなく、今日は共立病院に支払いに行ってきた。10月1ヶ月分と11月6日分。合計31万。この4ヶ月でどれだけ支払ったのかな。お金のことは心配していたので、通帳を見せて「この支払いが終わったら後は年金の範囲内でやれるから大丈夫だよ」と話しておいた。アパートを引っ越し前に荷物を整理していたら9万円の入った封筒が見つかった。義兄の葬儀などに用意した残りのようだったが聞くと「覚えていない」とのこと。これはラッキーだったので、衣装ケースや服、新居(?)で使うテレビも買うことができた。それを話しをしたら本人も嬉しそうで「これは良かったね。ヘソクリ万歳だね」＼(^o^)/

夕方思い出してなのはな苑に「入居申込み解約」の電話を入れた。「どちらに入られたか教えてもらえますか」ということだったので「百陽会、アルクオーレ岡崎大平」と伝えておいた。

11月8日（水）夜7時半

お風呂から上がった所に電話が鳴った。誰からか分からなかったが急いで出るとアルクオーレから。姉が部屋で転んだらしい。お風呂に入り腕時計を外し、部屋にもどって無いことに気がついてベッドから降りて探したらしい。入居の時の会議でもあの杖は危ないので歩行器に変えようという話しは出ていた。向きを変える時にバランスを崩したらしい。幸い骨折とか傷はない様子だ。アルクオーレには「これは歩行器に変えるいいチャンスだから本人にも「この杖は危ないでしょ」と言って変えて貰えばいい」と伝えておいた。何しろ気に入った杖なので手放そうとしないから。我が家の玄関でも何回か転んでいる。それにしても、解放はされないようだ。夜も電話の子機を持って布団に行かないといけな。わずか一日の解放日だった。

11月10日（金）

姉に手紙を書いて投函してきた。「お兄さんが使っていたこの杖は「転ばぬ先の杖」と言いつつ今は姉には合わない。「主（あるじ）と共に転げる杖」は手放して、スタッフが用意してくれる歩行器を使うように」という内容の手紙だ。聞き入れてくれればいいが。

姉の「たまたま箱」全部整理が付いた。病歴から介護認定決定書、アルクオーレの契約書などをまとめ、土地の登記書と生命保険証書に最後は遺言書を入れておいた。やっとすっきりした。

11月14日（火）

アルクオーレに入居してから1週間が立った。翌日にいきなり「部屋で転んだ」と連絡をもらったのでその後のことが気になっていたが、まあ明るいこと。時間が少し遅くなったこともしっかりと言われてしまった。部屋に入ると一人でトイレに行っていた。歩行器を上手に使っている。「これがないと一人で何もできない」と喜んで使っている。「椅子がないからここで良い？」と私を気遣ってくれてベッドサイドに二人で腰掛けて話をした。

「まず最初に、日記をつけているけどもうページがなくなったのでノートが欲しい」とのこと。「ああ日記をつけているのだ。」ベッドの頭元にはいつも使っていたペンケースが置いてあった。部屋に常設されている台には義兄の写真と目覚まし時計が並んで置いてある。以前の住処と同じような配置になっている。お金の話になり「財布の中には2000円しか入っていないので、タクシーを呼んで出かけたくても行けない。」と、この話は何回も聞かされた。そのたびに「タクシーで勝手に出かけたら駄目だよ。この施設の人が目の色を変えて探すから勝手に出ないでね」と本気とも冗談ともつかない顔で何回も返事をしておいた。「そうだよね。」と笑って返してくれる。表情は明るいが認知症はそのままだった。

面会の仕組みが分かった。玄関で受付を済ませると、面会時間は30分単位で設定されているので残りの時間をタイマーでセットされ持たされる。移動時間も含まれているため、遅れて戻ってくると次の人の時間が少なくなってしまうことが分かった。今度からはタイマーを5分前にセットしてもらって、音が鳴ると時間が来たことが姉にも分かるようにしようと思った。次回は21日の火曜日。11時。その前はすでに埋まっていた。面会の人沢山あるのだと分かった。

11月16日（木）

姉に頼まれていたノートを届けて来た。A4サイズとB5の2種類を持っていった。ベッドで書くのにA4は大きくて扱いにくいのではないかと思ったから。ノートの表紙に部屋の階数と名前を書いておいたので受付では分かりやすかったと思う。契約の書類もできていたのでそれをもらって帰った。

11月17日（金）

アルクオーレから電話がはいった。「以前にインフルエンザを受けたときに異常が出なかったか」という確認の電話だった。「別に暮らしていたし何も聞いていないのでよく分からない」と返事をしておいた。ついでにその後の様子を聞くと「ノートを持ってきて貰ったのですごく喜んでいた」とのこと。一見何もないように見えるが認知症はやはり進んでいて食事に来てもすぐに部屋に戻りたがるそう。病院ではベッドで食べていたのでその習慣かもしれない。従姉妹や叔母から直接こちらに手紙を送っても良いかどうか聞いたら「よく分からない人から来て混乱するのは困るが知っている人ならかまわない」ということだった。このまま認知症が進むと受け取っても分からなくなるかなあ。私が直接持って行った方が良いのかな。判断に迷う。

11月21日（火）

書き残した日記帳の中に新しいノートがあったのでそれとズボンの全ゴムのを持って姉に会いに行ってきた。部屋に入ると寝ていたらしく、顔を見ても反応がない。一瞬部屋を間違えたかと思ったけど、起き上がったらやっぱり姉だった。顔が険しい。でも「ここは椅子がないからベッドに座って」と私を気遣ってくれる。ノートを渡し、ズボンを入れ替えて「私のズボンだけいい？」と聞いてタンスに入れておいた。「年賀状を今年は作れないからどうしよう」と話しかけてきたので「このイソギンチャクの写真を入れていつも通りに作っておくよ。出す人は年賀状をくれた人にだけ返信で送ればいい。宛名も良かったら印刷して持ってくるから」と伝えておいた。話しをしている内に元気が出てきたのか「この部屋すごくいい。狭すぎず広すぎず、これを使ってすぐにトイレにも行ける」と本当に気に入った様子。紹介してくれたケアマネさんが「ホテルみたいだよ」と絶賛していたのがよく分かった。「衣食住」と言うけれど、住むところはとても大切。気に入って貰えて良かった♪「清ちゃん忙しいから頻繁に来なくていいよ。私は大丈夫だから」と人に対して心遣いができるようになっていた。「年賀状シーズンで忙しいから、今度はいつ来るか決めないでおくからね」と伝えて次回の予約をせずに帰った。

11月30日(木)

アルクオーレに行ってきた。銀行口座の住所変更をするために本人確認のできるものが必要で保険証のコピーをもらいに行ったのだ。電話のやり取りで写メをで取ってメールで送ってくれるようお願いしてあったが届いてなかったから。受付で「昨日送っておきました」と担当の人が言われてスマホを見ると迷惑メールに入り込んでいた。

この前姉に会ったときに「英語で書いた日記帳が欲しい」と言っていたので、それを持って行こうと思っていたので出かけることは無駄ではなかった。面会の予約は取ってなかったので会うことはできない。今度予約を取ってゆっくりと会って来よう。

12月3日(日)

久しぶりに姉に会いに行ってきた。来ることは聞いていたらしい。めまいがすると言って寝ていた。前回行った時も「グラグラ目眩がする」と言っていたから調子があまり良くないようだ。行く前に記帳して通帳を持って行ったので見てもらおうと「これは私が持っているね」と言う。「もし自分で持っていたかったらこの人に貴重品預かりで預けないといけないよ」と伝えたら「どうして?」と言う。「万一なくなったりしたら困るでしょ」と説明し結局また私が持って帰った。「ネコババしないから大丈夫よ」と言ったら笑っていた。「自分でお金も払わず食べさせてもらって、なんと平和な暮らし」と言っていた。「衣食住が満たせたら人間幸せだね」と返事をし、お金はこの通帳からちゃんと引き落とされるから自分で払ったことになるからね。12月26日に1回目の支払があるからその後通帳をコピーして持ってくるね」と伝えた。他の人は食堂で車椅子に座って居眠りしたりボーっとしている。姉はベッドでテレビを観ながら寝転んでいた。暇だよなあ。どうも話し相手になってくれそうな人はいないようだ。同じ空間にいただけで話しが通じるということではなさそうだ。これが現実か。「従姉妹と叔母にお世話になったお礼を送って置いたよ」と一応伝えておいた。手紙にはこの前部屋を撮した写真を入れて置いたと言ったら見たいということでスマホを見せたら自分も印刷して欲しいと言う。A4で印刷しラミネートして持ってくれば壁に飾ることもできる。「年賀状が気になる」というので見本を作って持って行くことにした。(忘れないように)

12月9日(土)

面会に行ってきた。30分近くかかるので混んでいる時は遅くなってしまう。勿体なかったが遅刻してしまった。相変わらずベッドで横になりテレビを見ている。顔色はいいようだ。部屋で撮った写真はA4で印刷しラミネートで加工し穴を空けて紐を通して持って行ったのですぐに飾ることができた。加湿器はスイッチが入っているが水が切れていたの水を入れて置いた。年賀状の見本は郵送しておいたので、とても気に入って喜んでいた。写真クラブで岡崎城周辺を歩いたときの物。4月だったのでお城と桜がきれいでピントも合っていて私も気に入った物だ。「今年は大河ドラマで岡崎が注目されているから丁度いい」という話しもできた。2種類送っておいたので「一言添え書きのある方がいい」ということになり見本を持ち帰った。学生から喪中ハガキが来ていたので連名のどちらが生徒か確認し、住所変更の知らせを兼ねて寒中見舞いを出すことにした。少しずつ姉の住所録が増えて行く。次に行くのは26日。「入居して初めての引落があるのでそれを確認し通帳のコピーを持って」行く伝えておいた。

12月23日（土）

久しぶりに面会に行ってた。この間に田舎で葬儀があったりしてちょっと間が空いたので、やはり「久しぶりだね」と言っていた。「訃報が入るかもしれない」と伝えてはあったけど忘れているようだ。そして年賀状のことを何回も言う。「ちゃんと印刷して作って持ってくるから」と言っていたけど「どうしたらいい？」って。親戚の5枚を見せて「一言添え書きして」と言っていたけど「このままで良い」と言うので帰りに投かんしてきた。次回にはどこに出したか一覧表を作って持って行こう。先日帰ったときの従兄弟会の写真をハガキサイズに印刷して渡したら「えっ、こんなに、変ったねえ」とびっくりの声。「いやいや一番変ったのは貴方だと思うよ」と思ったけどそれは飲み込んで。毎週電話で話をしていた従姉妹は「ふ～ん」と言っただけ。「叔母ちゃん若いね」って。自分よりも10歳も上なのに全然変らない。クリスマスなので『図書館ライオン』の絵本を持って行った。「本くらい読まないで頭が劣化する」ようなことを言ったので「読みながら寝るけどね」と言ったら笑っていた。今回は11月に入居してからの通帳をコピーし、26日に引き落とされる金額も引いて今月末の残高が分かるようにしておいた。生活に必要な用品は別の支払になるので現金で払っておいた。直接通帳から引き落としができるように手続きをしておきたい。タイマーが鳴ったので「年内にもう1回来るから」と伝えておいた。

12月30日（土）

「年内にもう一度来るからね」と伝えてあったので行って来た。前日に予約を申し込んだが午前中が取れず、夕方4時になり、強風を心配したけれど晴れて穏やかな日で安心した。部屋に入ると待っていたようで「今日は入浴の日で、清ちゃんが来るのにお風呂に入っていて会えないといけないと思って焦った」と言う。お風呂は午前中、私が行くのは夕方4時。知ってはいるようだけど時間の間隔が分からないようだ。この話を3回ぐらい聞いた。会えなくなることがよほど心配だったようだ。大きな文字のカレンダーを持って行ったのでかけてあるコートをタンスにしまってこちらにぶら下げておいた。今度行くつものの「4日」に○を付けて「年賀状持参」と書いておいた。「年賀状を持ってくるからね。来た年賀状はすぐに返信しておくからね」と伝えておいた。「何から何までお世話になって」としおらしいことを言っている。そして「私はどうしてここにいるの？誰がここを教えたくれたの？」と聞くので「優ケアセンターの鈴木さんという人がここを紹介してくれて入れたんだよ。この前ちゃんとお礼をしておいたからね。沢山相談に乗ってくれていろんなことを教えてくれてとてもお世話になったから」と話したけど、分かったかなあ。その時は理解できるようだがすぐに忘れる。多分同じ会話をまたする事になるだろう。でも部屋がとても気に入っているようでこちらも嬉しい。アルクオーレの市丸さんから優ケアの鈴木さんには「喜んで生活している」ことが伝わっていた。この連携がまた嬉しい。感謝。

エレベーターを降りた所に初詣のセットがあった

「百陽神社」に笑った♪（社会福祉法人百陽会 アルクオーレ）

